一/般/質/問　町政を問う！

2

答弁中の平松町長

コロナ

学校等のコロナ対策は

感染対策を徹底

問

デルタ株が猛威をふるい、子どもの感染が6倍に増えています。12歳以下のワクチンは無く、学校で感染し、家庭感染につながるケースが増加しています。2学期から短縮授業やオンライン授業を行う学校もあります。

学校等の感染対策、オンラインの活用、校舎内の自動水栓化等についてお聞きします。

今村 桂子　議員
（写真はアクリル板を通しているため不鮮明になっています）

答　安河内教育長

学校等の感染対策については、登校前に各家庭での朝の検温、健康チェックを保護者にお願いし、発熱等の風邪症状がある場合等、感染リスクが高まる場合は、出席停止としています。

また、家庭での検温ができなかった児童生徒には、校舎に入る前に職員で確認するようにしています。

学校での教育活動においては、児童生徒が長時間近距離での対面形式となるグループワークや大きな声で話す活動等、感染リスクが高い活動については制限しています。いずれの教室においても常時換気を行い、マスク着用や手指消毒等、感染対策を徹底しています。

オンライン授業については、家庭への持ち帰りWi-Fiルーター3クラス分の120台を契約し、学級閉鎖時に対応できる環境整備を行っています。

自動水栓化については、第三小学校外壁工事の際、あわせて同小学校のトイレ改修を行い、これにより町内全小中学校のトイレは、自動水栓化となりました。手洗い場の自動水栓化については、今後の大規模改修の際に検討していきます。

また、2年間ほど殺菌効果が持続すると言われている無光触媒を検討しています。就学前の幼児園と学校、それから学童保育所に施工することで、子どもの安全も図られ、消毒作業などの負担も少し減るのではないかと考えています。

登校時の健康チェック

3

施設

町立図書館の今後の構想は

時期を見極めて

問

建築から46年を経過している本町の図書館は、耐震問題や蔵書数に対して床面積が狭く、閲覧部屋や児童書コーナーも狭い状況にあります。2階の体育館使用時は、騒音・振動も激しく図書館の構造物として適切とは言えず、図書館機能としても町民の今日的なニーズに応える内容を持つ文化施設ではありません。

川口 満浩　議員
（写真はアクリル板を通しているため不鮮明になっています）

しかし、老朽化に伴う改修や建替えには多額の支出が必要となります。そこで現状のまま図書館をいつまで運営されますか、建設計画の考えはありますか、耐震診断・改修事業は実行されますか、リノベーションされる考えはあるのか今後の計画についてお尋ねします。

答　平松町長

今現在、コロナ禍の中、また、企業や町民が増加している状況の中で、まず何をやらなければならないのかを考えるのが私の役割です。

町民の安全安心、命を守る施策の大きな柱としての中部防災センター建設。待機児童対策も含め、コミュニティ事務局の活動の場としての南幼稚園の建替え。コロナ禍により令和4年度まで休止しているふれあい公園（仮称）の整備。災害対策の一環として、指定避難所であるアザレアホール須恵とオイコスの非常用電源の整備。須恵中央交差点を含めた県道整備への町負担。そういったことを考えた中で、今すぐに図書館を建設とはいきません。今しばらく辛抱してください。

私は、青少年を含めた教育予算にふるさと納税を充てたいと思っています。

全国の方々が須恵町を応援しようと寄附してくださったお金です。安直に財政に組み入れ、どこで使ったか分からないような使い方ではなく、メッセージとして「ありがとう」「こういったものをつくり、町民が非常に喜んでいます」と伝えられるようにしたいです。

このふるさと納税を活用して図書館を主体とした、町内外の色々な人が集える場所をつくりたいと思っています。